

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：32202

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520642

研究課題名(和文) 逐次通訳アプローチによる外国語指導法の効果とその汎用性の確立に向けた基礎的研究

研究課題名(英文) A basic study to enhance the effects of the foreign language instruction method based on the Consecutive Interpreting Approach and to establish its versatility

研究代表者

飯塚 秀樹 (Iizuka, Hideki)

自治医科大学・看護学部・講師

研究者番号：90617466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：The Consecutive Interpreting Approach はプロソディーセンス獲得のためのシャドーイングと情報発信の意識を高めるためのリプロダクションとを統合させた指導法であり、申請者は本アプローチに基づく実践研究をまとめ、2012年ELEC賞を受賞した。本アプローチの実践風景はビデオに収め、学生の許可を得てweb上に掲載してある。<https://www.youtube.com/watch?v=ZdPhI5RUqbl>

主な効果として、約200語弱からなる英文を、本学看護学部の学生96名が平均82.3%の割合で、正確に口頭・筆記再生をしていたことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：The Consecutive Interpreting Approach is a foreign language instruction method in which 'shadowing' to enhance students' prosodic awareness and 'reproduction' to induce their voluntary output are integrated. The paper based on this approach won the ELEC prize in 2012. With the students' permission, a part of the lesson was video-recorded and uploaded on the web at: <https://www.youtube.com/watch?v=ZdPhI5RUqbl>

Some of the remarkable effects to be noted are that the participants improved their listening skills significantly and that 96 students in the class succeeded in reproducing, orally and in writing, 82.3% of the passage which is comprised of about 200 words.

研究分野：外国語教育

キーワード：シャドーイング リプロダクション プロソディー 逐次通訳

1. 研究開始当初の背景

(財)国際ビジネスコミュニケーション協会のデータによると、2010年度の日本人高校生・大学生の TOEIC 平均点はそれぞれ 398 点、444 点に過ぎず、大学生であっても正答率は 50%を超えていない。これまで国レベルの英語政策や第二言語習得研究の蓄積があったにもかかわらず、なぜ依然として正答率が低いのか。申請者は高等学校英語科教諭としての経験から、その理由は「研究環境」と「指導環境」の乖離にあると考えている。たとえ優れた成果を生み出した研究であっても、日々の授業でそれが展開できなければ、学生の語学力は向上しない。従って、本研究の学術的な特色・独創的な点は、日常の授業環境下で効果をもたらした Consecutive Interpreting Approach(逐次通訳アプローチ)を再度検証し、さらなる一般化・汎用性を求めている点、また 2013 年度から実施される新学習指導要領の意向に沿い、口頭によるコミュニケーション活動を基盤に置いている点にある。本研究から導き出された指導法が一般化されれば、日本人学生の語学力向上に貢献できるであろう。

2. 研究の目的

本研究では、逐次通訳アプローチに基づくプロソディー重視の指導を語学習熟度の異なるグループの対象者に処置し、その効果及び実践現場からのフィードバックを考察する。次に、それらの知見から本アプローチを精査し、日々の授業で既存の教室環境を変えることなく日本人学生の aural-oral skills (聴解・口頭表現力)を高率良く高めるための具体的且つ実行可能な方略を提案する。また高校教師及び国内外の研究者を交えたネットワークを構築し、より効果的な指導法を探求・発信するための継続的な研究基盤を確立する。

3. 研究の方法

本アプローチの効果を高め、その汎用性を拡大するために、本学看護学部をはじめ、異なる教育機関で本アプローチに基づく実践活動を実施し、量的・質的側面から本アプローチの効果及び指導法を検証する。その後それらの結果をもとに、既存の教室環境下で本アプローチを効率良く運用するための方法を考察する。特に、SL の難易度の変化により本アプローチに変更を加える必要性があるのか、また、変更を加える場合、どの手順にどのような変更を加えれば効果・汎用性が高まるのかについて明らかにする。

その間、積極的に論文投稿や国内・外での学会発表を行うと共に、高等学校教員を対象とする研究授業・実践発表を行う。これらの活動から高校教諭、国内外の研究者を交えた継続的研究基盤を確立し、本研究成果の普及に努める。

4. 研究成果

本アプローチに基づく先行研究からは以下のことが明らかにされた。

本アプローチに基づく指導を公立高校に在籍する 75 名の生徒達に行ったところ、Figure 1 の . における筆記再生上で、1 学年 (39 名) では 84.5%、3 学年 (36 名) では 61.5%の割合で教科書本文を書き出すことに成功した。つまり、音声活動中心の本アプローチはライティング活動にも好影響をもたらすことが示された(飯塚・長橋, 2013)。

本学看護学部生対象に の実験を再検証したところ、学生 96 名の筆記再現率は平均 82.33%に達した (Figure 2) 。 の両実験とも Target Language の累積語数が 80~100 語を超えるあたりから、再生率の低下が見られたため、本アプローチは 100 語前後のパスセージを用いることで、

学習意欲を落とさずに機能することが示唆された。

・ 筆記再生の中間言語分析から、本アプローチでは解決しづらい言語項目も明らかにされた。

・ 本アプローチに基づく授業は、学生による授業評価において4点満点中3.65点という評価を受け、学生が意欲的に授業に参加していることが示された(Iizuka,2014)。

・ 飯塚・長橋(2013)の著した論文が ELEC 賞を受賞したことにより、申請者は文科省後援 ELEC 夏期英語教育研修会で2012年度より毎年講師を務め、これまでに21都道府県、計88校の先生方と本研究の成果を共有してきた。

・ 本研究参加者のリスニング能力も有意に伸張した。

Fig. 1. Consecutive Interpreting Approach の流れ

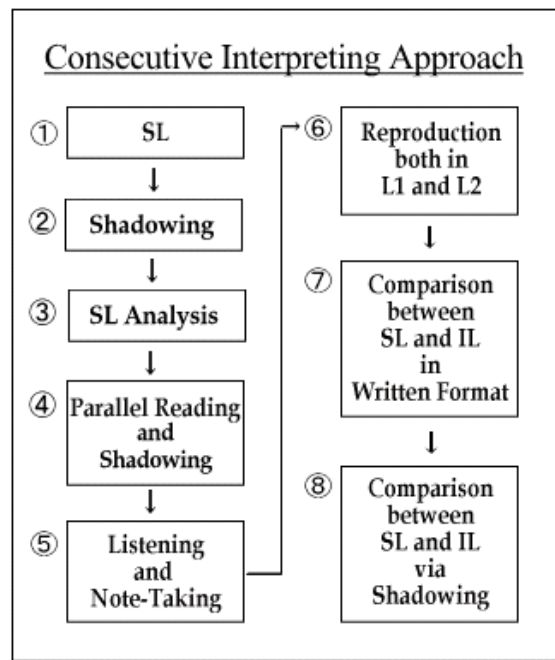
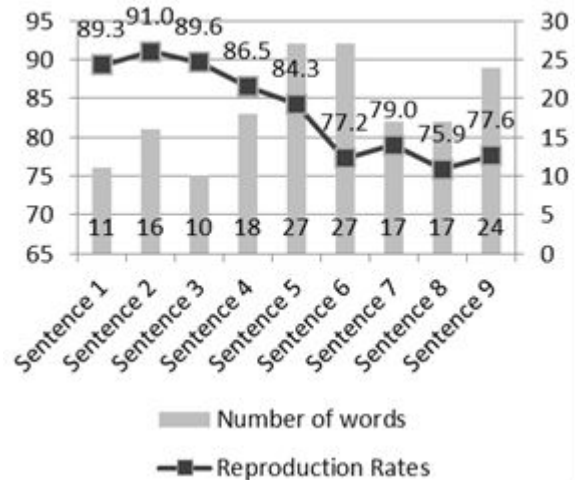


Figure 2. Written Reproduction Rates



<引用文献>

1. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)(2012)『TOEIC テスト DATA & ANALYSIS 2011』
2. 飯塚秀樹, 長橋雅敏(2013).

『Consecutive Interpreting Approach に基づくプロソディー重視の口頭練習が L2 筆記再生に与える効果』. 英語展望 ELEC BULLETIN, (120). 62-72.

3. Iizuka H. (2014) : The Consecutive Interpreting Approach and its effects on L2 written reproduction. 通訳翻訳研究, 14: 259-276, 2014.

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計5件)

1. Iizuka H. (2014) : The Consecutive Interpreting Approach and its effects on L2 written reproduction. 通訳翻訳研究, 14: 259-276, 2014 (査読有り)

2. Iizuka H. (2014) : An application of the Consecutive Interpreting Approach to English for Medical Purposes (EMP). Journal of Medical English Education, 13 (1) : 15-23, 2014. (査読有り)

3. 飯塚秀樹, 長橋雅俊. (2013) : Consecutive Interpreting Approach に基づくプロソディー重視の口頭練習が L2 筆記再生に与える効果. 英語展望 ELEC BULLETIN, 120 : 62-72, 2013. (ELEC 賞研究部門受賞論文)(査読有り)

4. 飯塚秀樹. (2012b) : 逐次通訳法による口頭練習が英語コミュニケーション能力に与える影響. 茨城県高等学校教育研究会英語部研究紀要, 24 : 47-49, 2012. (査読なし)

5. 飯塚秀樹. (2012a) : 逐次通訳アプローチに基づく医学英語教育の実践とその考察. 自治医科大学看護学ジャーナル, 9 : 25-36, 2012. (査読有り)

[学会発表](計5件)

1. H. Iizuka. The Consecutive Interpreting Approach. JALT 2014 Conversation Across Borders Conference, Tsukuba International Convention Center, 24 November 2014.

2. H. Iizuka. An application of the Consecutive Interpreting Approach to EFL students - how it affects English proficiency and how the students view the experience. BAAL (British Association for Applied Linguistics) 47th Annual Conference, University of Warwick, the UK, 6 September, 2014.

3. H. Iizuka. Application of the Consecutive Interpreting Approach to English for medical purposes. The 17th JASMEE Academic Meeting, Tokyo Garden Palace, Tokyo, 19 July, 2014.

4. 飯塚秀樹. Consecutive Interpreting Approach に基づく外国語指導法とその効果・汎用性についての考察第19回日英・英語教育学会研究大会, 駿河台大学, 2013年9月21日.

5. 飯塚秀樹. Consecutive Interpreting Approach に基づく英語指導法の実践 - その具体的効果と学生による授業評価から - 日本通訳翻訳学会第14回年次大会, 愛知学院大学, 2013年9月8日.

[招待講演](計13件)

1. 英語を学ぶことの大切さ ~効果的な学習方法について~ 栃木県立小山西高等学校教育講演会. 栃木県立小山西高等学校, 2015年1月26日(月).

2. H. Iizuka. The Consecutive Interpreting Approach and its potential for academic presentations and writing. 2nd International Symposium on Academic Writing & Critical Thinking at Nagoya University, Nagoya University, 21 February, 2015.

3. H. Iizuka. The Consecutive Interpreting Approach and its application to university English classes. A lecture / Workshop at Nagoya University, Nagoya University, 24 January, 2015. (Invited)

4. 飯塚秀樹. : 通訳訓練法に基づいた Consecutive Interpreting Approach の指導法. 文部科学省後援 ELEC 夏期英語教育研修会, 東京都千代田区安田コミュニティプラザ, 2014年8月6日(水). (発表言語: 英語).

5. 飯塚秀樹. : Consecutive Interpreting Approach の実践 ~その課題と評価方法~. 2014年度第2回通訳教育プロジェクト研究会, 東京外国語大学, 2014年6月29日(日). (発表言語: 英語).

6. 飯塚秀樹. : 語学学習の必要性和効果的な英語学習について. 平成26年度神奈川県立厚木商業高等学校進路講演会, 神奈川県立厚木商業高等学校, 2013年6月5日(木).

7. 飯塚秀樹. : これからの社会を生き抜くために ~語学教師の視点から~. 平成25年度栃木県立小山西高等学校教育講演会, 栃木県立小山西高等学校, 2013年3月18日(火).

8. 飯塚秀樹. : 音声中心の英語学習法と全国商業高等学校英語検定試験対策. 平成25年度総合的な学習の時間, 千葉県立千葉商業高等学校, 2013年10月29日(火).

9. 飯塚秀樹. : Consecutive Interpreting Approach に基づく英語教授法. 文部科学省後援 ELEC 夏期英語教育研修会, 東京都千代田区安田コミュニティプラザ, 2013年7月31日(水).

10. 飯塚秀樹. : Consecutive Interpreting Approach(逐次通訳法)に基づく授業づくりの理論と実践の指導. 平成25年度英語教育指導法研修会, 茨城大学教育学部附属中学校, 2013年7月18日(木).

11. 飯塚秀樹. : 第1学年英語学習に関する出前授業. 平成25年度第1学年進路講演会, 茨城県立日立商業高等学校, 2013年2月20日(水).

12. 飯塚秀樹. : 新学習指導要領に向けた高校英語授業の工夫. 文部科学省講演 ELEC 夏期英語教育研修会, 東京都千代田区安田コミュニティプラザ, 2012年8月15日(水).

13. 飯塚秀樹. : 新学習指導要領に向けた
高校英語授業の工夫 ~ Consecutive
Interpreting Approach と全商英検対策.
平成 24 年度ビジネス英語指導者研修会,
千葉県立千葉商業高等学校, 2012 年 7 月 24
日(火).

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯塚秀樹(自治医科大学看護学部・講師)
研究者番号：90617466

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：